

第1回SPARC Japan セミナー

「国際日本研究と学術デジタル コミュニケーションの現在」

友常勉

東京外国語大学

国際日本研究センター

1 e-Japanologyの問題意識

1-1 背景：学術デジタルコミュニケーションの高度化

- 国立国会図書館「科学技術基本政策策定の基本指針」、新著作権法にもとづく資料保存を目的としたデジタル化、全国図書館・公文書館・美術館のリサーチシステムを統合するNDL Searchの稼働（2012年）。
- 学界単位...国際的には1995年にすでに自然科学系の学術英文ジャーナルの電子化とwebでの公開開始、欧米の大手出版社の電子ジャーナル主体の出版体制への移行
- 日本国内...日本化学会の国際標準のXMLフォーマット作成、電子ジャーナル化・データベース化
- 海外...北米の電子ジャーナルサービス（JSTOR, Project Muse, EBSCO, Academic Search Primer）
- ⇒日本国内の人文社会科学系は国際標準の電子ジャーナルサービスは依然として遅れている。ただし、ここ数年でデータベースの電子化が著しく進んだのも事実。人文科学系にとって身近なものとして、電子化されたアーカイブとして、国立公文書館アジア歴史資料センター、国会図書館近代デジタルライブラリー、大分大学学術リポジトリ、神戸大学付属図書館新聞記事文庫など。



海外の日本学・日本研究（人文社会科学系研究）が直面している困難

- 知の電子化・データベース化の遅れによって、海外の日本研究・日本研究者の減少を招いているということ
- マルラ俊江（UCLA東アジア図書館司書）の報告「海外の大学図書館からみた日本研究と学術デジタルコミュニケーションの課題」（東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』vol.1,2011年3月、以下〔Marra,頁〕と表記）によれば、19ある北米大学の東アジア図書館のいずれにおいても中国系資料が日本語資料をはるかに上回る。電子書籍のアクセスの格差も拡大。日本語電子書籍・電子ジャーナル購読は、中国語、朝鮮語のそれをはるかに下回っている（後述）
- ⇒進展しつつある学術デジタル化を、国際日本研究の停滞の打開に結びつける方向性が必要となる。

1-2. e-Japanologyの試み

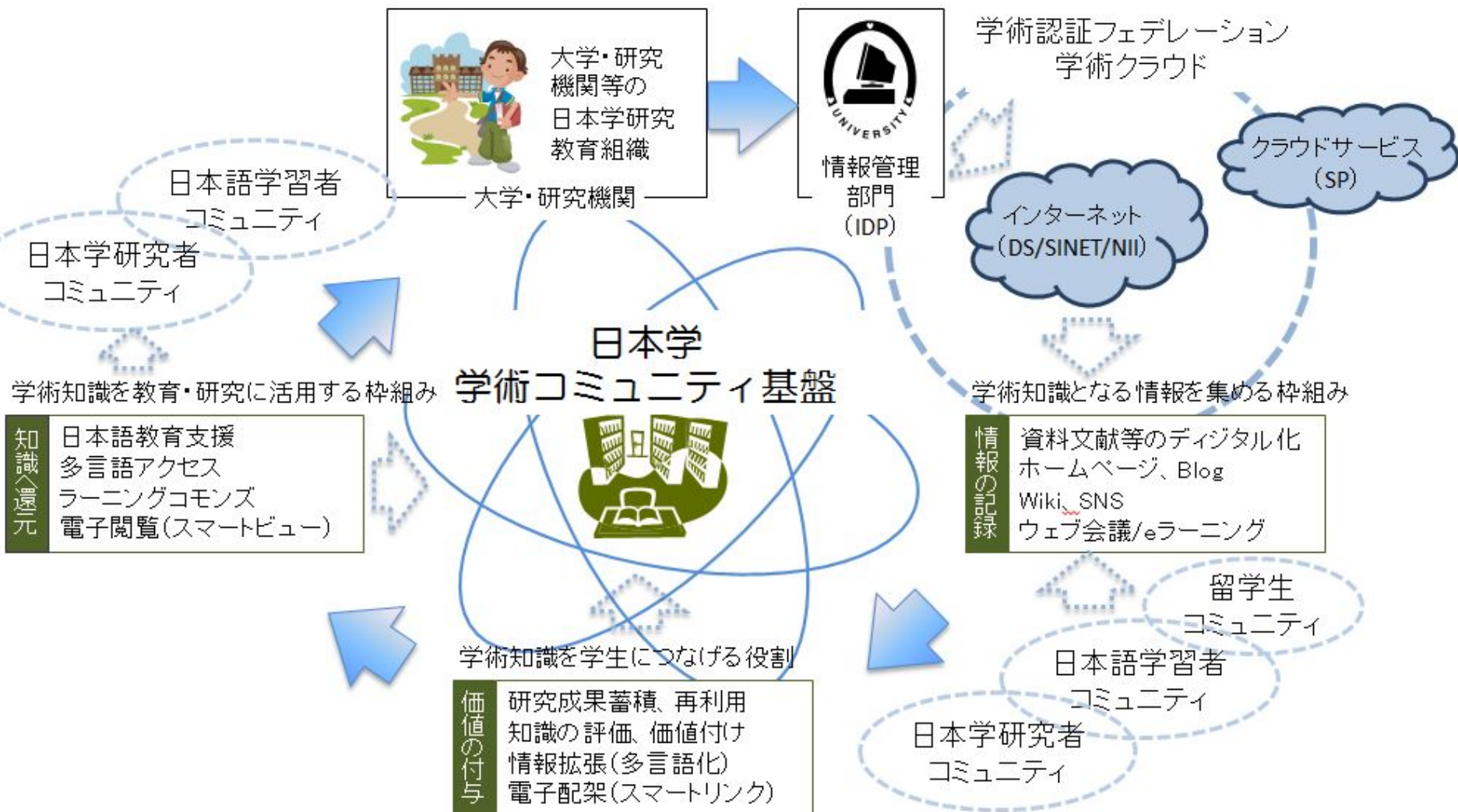
- 東京外国語大学を中心に、東京の多摩地区エリアで協力関係にある大学（東京農工大学、東京学芸大学）とのあいだで、日本研究の国際アクセス環境の高度化に向けた実験的な事業に着手する

東京外国語大学「世界の言語・文化・地域理解のための最適化プログラム」（以下、「最適化プロジェクト」は海外で日本語や日本文化を学ぶ学生や研究者向けのコンテンツを作成

それらのコンテンツを素材に、クラウド技術を活用した情報基盤を構築する

また、海外の日本学・日本研究者を支援し、その知識とアクセス環境の継続的なメンテナンスを行う教育機能も備えたい

ネットワーク時代の参加型の交流推進、情報価値の創出



佐野洋「多摩地区大学連携におけるe-Japanologyの構想」(東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』vol.1,2011年3月)より

1-3 実現のためのステップ

- i 日本学・日本研究の概念化・鮮明化とその国際環境の把握。
- ii 「最適化プロジェクト」と国際日本研究センターによるコンテンツ作成事業への協力。
- iii メディア・テクノロジーを利用したコンテンツ配信のための技術支援。遠隔教育システム、認証・検疫システムを構築する。
- iv コンテンツ拡充のための仕組みと、構造化された知識にアクセスする手段の提供、知識ナビゲーション技術の開発。上記iiiの事業と連動して、学術クラウドサービスの構築と、そのノウハウを整理・普及する。
- v 日本語、中国語、英語による海外の研究者・学習者に向けたアクセス・サービスの試験的提供。東京外語大、東京農工大、東京学芸大の留学生を対象に、デジタル・アクセス・サービスを行おう。さらに試験的な配信事業を海外の研究協力大学を対象に行おう。

- ❶ただし、上記の構想は期待されるネットワークにおいてはあくまで第一段階のレイヤー
- そこで本報告では、さらに、日本研究の国際学術ネットワークを形成するためのもう一段階上のレイヤーとの結合の方向性を考えてみたい。

2 米国における国際日本研究の現状——マルラ俊江報告より

2-1 米国の日本研究における人文科学系 **humanities** と社会科学系 **social science** のインセンティブの差

「人文科学系研究者が必要とするのは、既存の図書館のコレクションを通じて、あるいはILL(Interlibrary Loan)を通して入手できる調査資料という傾向がある。社会科学系は米国にない日本関係資料、あるいはILLを通しては入手しにくい資料を必要とする。それゆえ社会科学系は自ら資料を購入する傾向がある」 (Japan Studies in the United States 2007:175)

2-2 米国の日本研究者の内訳と動向 (Marra,167)

表 1：米国の日本研究者の分野別内わけ⁶⁾

	2005年 (%)	2005年 (総数)	1995年 (%)	1995年 (総数)
人文系	45.6%	562人	37.9%	579人
社会科学系	25.0%	308人	31.6%	483人
専門職業系	9.6%	118人	14.8%	226人
日本語・言語学系	8.8%	109人	6.5%	100人
学際的分野	6.2%	76人	5.3%	81人
芸術系	4.4%	54人	3.0%	46人
理工学系	0.4%	5人	0.8%	12人
合計	100%	1,232人	100%	1,527人

「1995年の調査と比較すると、人文系の総数〈1995年579人/2005年562人〉がほとんど変わっていないのに対し、社会学系〈1995年483人/2005年308人〉と専門職業系〈1995年226人/2005年118人〉では大幅に減少している。これには、日本のバブル経済の崩壊が影響しているものと思われる」(Marra, *ibid.*)。

表 4：分野別日本関連コース（コース・レベル別、2005 年）¹⁴⁾

コース・レベル 分野	下級レベル		上級レベル		大学院		計		1995 年との比較 %
	総数	%	総数	%	総数	%	総数	%	
歴史学	198	27.5	443	61.5	79	11.0	720	19.1	+21.8
文学	136	22.1	330	53.7	149	24.2	645	16.3	+43.0
美術史	96	33.6	160	54.8	34	11.6	292	7.8	+32.7
日本研究	98	34.3	147	51.4	41	14.3	286	7.6	+88.2
政治学	40	14.2	182	64.8	59	21.0	281	7.5	+44.1
宗教学	62	35.0	91	51.4	24	13.6	177	4.7	+25.5
言語学	14	8.2	68	39.8	89	52.0	171	4.5	+71.0
仏教学	35	23.3	85	56.7	30	20.0	150	4.0	+8.7
人類学	34	28.3	73	60.8	13	10.8	120	3.2	+17.6
映画研究	35	31.8	65	59.1	10	9.1	110	2.9	+96.4
東アジア研究	35	40.2	39	44.8	13	14.9	87	2.3	*new
経済学	13	20.0	37	55.4	16	24.6	66	1.8	-2.9
哲学	15	33.3	27	52.9	7	13.7	51	1.4	+30.8
舞台芸術	8	15.7	35	68.6	8	15.7	51	1.4	+70.0
女性学	11	22.4	35	71.4	3	6.1	49	1.3	-16.9
ビジネス経営学	5	10.4	17	35.4	26	54.2	48	1.3	-29.4
社会学	10	22.2	26	57.8	9	6.1	45	1.2	-40.8
音楽	11	28.9	26	68.4	1	26	38	1.0	+40.7
アジア研究	10	29.4	23	67.6	1	29	34	0.9	+6.3
日本語**	5	15.6	24	75.0	3	9.4	32	0.9	*new
第二外国語	0	0	12	40.0	18	60.0	30	0.8	*new
法学	1	3.3	2	6.7	27	90.0	30	0.8	0.0
地理学	4	14.3	19	67.9	5	17.9	28	0.7	*new
その他	37	13.9	152	59.8	64	26.2	253	6.7	-17.6
合計	917	24.4	2118	56.3	729	19.4	3764	100.0	+28.6

* この表では日本語コースは除外されているが、日本だけないしは日本を含む複数の国を扱う地域研究コースはすべて含む。また、日本語文献を使う分野のコースも含む。学問分野はコースの数の多い順に配列。

** 日本語プログラムで言語習得に関係ないコース。

表 5: 2009 年 6 月末現在の北米東アジア図書館蔵書数 CEAL 統計委員会統計 ¹⁵⁾

日本語 蔵書規 模順位	図書館名	図書館内蔵書数					電子書籍蔵書数*					電子書籍を 含む蔵書数
		言語別蔵書数					言語別蔵書数					
		中国語	日本語	朝鮮語	それ以外の 言語	合計	中国語	日本語	朝鮮語	それ以外の 言語	合計	
1	Library of Congress	1,040,051	1,178,360	268,445	431,569	2,918,445	0	0	0	0	0	2,918,445
2	California, Berkeley	502,375	385,461	91,275	18,704	997,815	781,562	0	0	0	781,562	1,779,377
3	Harvard-Yenching Library	722,403	317,024	145,083	75,051	1,259,561	2,000	0	0	0	2,000	1,261,561
4	Michigan	424,042	300,384	32,523	0	756,949	0	0	0	0	0	756,949
5	Columbia, Starr East Asian	402,871	296,414	81,659	87,537	868,481	20,624	0	0	6,000	26,624	895,105
6	Yale	489,984	265,253	13,582	0	768,819	1,500	0	0	5,000	6,500	775,319
7	Chicago	442,246	223,652	65,703	0	731,601	0	0	0	0	0	731,601
8	Stanford	340,440	204,893	35,653	79,954	660,940	780,490	0	363	0	780,823	1,441,763
9	Princeton	499,401	193,568	20,348	0	713,317	0	0	0	0	0	713,317
10	California, Los Angeles	310,382	191,049	51,653	54,200	607,284	6,954	0	203	0	7,157	614,441
11	Toronto	253,152	176,889	43,242	4,800	478,083	2,434	0	0	0	2,434	480,517
12	British Columbia	310,398	156,374	29,497	77,832	574,101	1,341	0	0	0	1,341	575,442
13	Cornell	388,864	155,813	12,932	80,750	638,359	0	0	0	0	0	638,359
14	Washington	273,773	147,662	98,592	38,033	558,060	0	0	0	0	0	558,060
15	Hawaii	159,554	133,054	64,208	0	356,816	946	0	5,230	0	6,176	362,992
16	Pittsburgh	267,170	125,536	11,081	14,840	418,627	3,095	0	0	0	3,095	421,722
17	Ohio State	145,048	120,387	6,537	0	271,972	0	0	0	0	0	271,972
18	Pennsylvania	161,499	81,774	7,650	0	250,923	0	0	0	0	0	250,923
19	Kansas	142,372	79,063	4,942	40,226	266,603	11,986	865	0	48	12,900	279,503
20	Indiana	150,516	75,798	19,486	50,805	296,605	0	0	0	0	0	296,605
	上記 20 館の合計	7,426,541	4,808,428	1,104,091	1,054,301	14,393,361	1,612,932	865	5,796	11,048	1,630,612	16,023,973

* 電子書籍蔵書数は購入と購読を含む。

(Marra, 171)

表 6：2009 年6月末現在の北米東アジア図書館データベース・電子ジャーナル購読資料数 CEAL 統計委員会統計¹⁶⁾

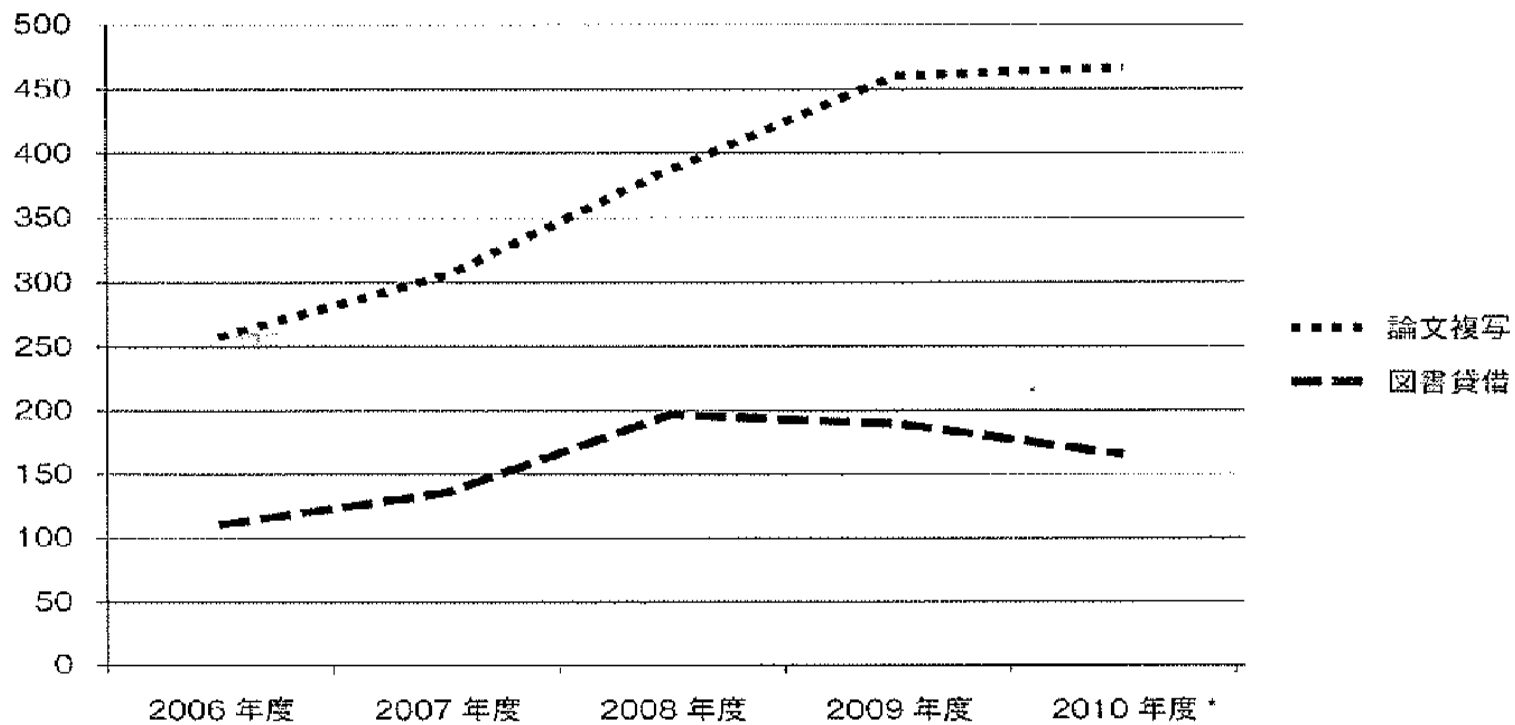
日本語 蔵書規 模順位	図書館名	日本語資 料蔵書数	データベース購読数					電子資料購 読費合計
			言語別データベース購読数					
			中国語	日本語	朝鮮語	それ以外の 言語	合計	
1	Library of Congress	1,178,380	19	6	8	2	35	\$0.00
2	California, Berkeley	385,461	18	4	1	0	23	\$131,494.00
3	Harvard-Yenching Library	317,024	0	0	0	0	0	\$107,000.00
4	Michigan	300,384	6	6	11	0	23	\$0.00
5	Columbia, Starr East Asian	296,414	28	10	13	1	52	\$0.00
6	Yale	265,253	13	10	2	1	26	\$75,328.00
7	Chicago	223,652	7	6	5	0	18	\$0.00
8	Stanford	204,893	13	6	12	0	31	\$146,706.00
9	Princeton	193,568	55	18	4	11	88	\$279,631.00
10	California, Los Angeles	191,049	16	7	16	5	44	\$82,126.00
11	Toronto	176,889	11	4	14	0	29	\$51,648.00
12	British Columbia	156,374	0	0	0	0	0	\$0.00
13	Cornell	155,813	0	0	0	0	0	\$0.00
14	Washington	147,662	0	0	0	0	0	\$0.00
15	Hawaii	133,054	8	5	12	0	25	\$30,341.00
16	Pittsburgh	125,536	9	2	0	2	13	\$51,702.00
17	Ohio State	120,387	4	0	1	0	5	\$0.00
18	Pennsylvania	81,774	0	0	0	0	0	\$0.00
19	Kansas	79,063	14	4	0	14	32	\$46,660.31
20	Indiana	75,798	10	5	1	5	21	\$0.00
	上記 20 館の合計	4,808,428	231	93	100	41	465	\$ 1,002,636.31

表7：北米で契約可能な日本語電子資料（NCC 電子資料委員会サイトに拠る）¹⁹⁾

リソース・タイプ	データベース名	データベース提供機関	商品情報
新聞資料	朝日ビジュアル	朝日新聞社	http://database.asahi.com/library2e/main/dhazex01ain2.html
新聞資料	Nikkei Telecom 21	Nikkei America, Inc.	http://www.nikkeiamerica.com/telecom21/index_en.aspx
新聞資料	沖縄タイムス記事データベース	沖縄タイムス社	http://www.okinawatimes.co.jp/ota/database/
新聞資料	ヨミダス文書館	読売新聞社	http://www.kinokuniya.co.jp/036/denhan/yomiuri/bunshokan.htm
辞書・百科事典等	JapanKnowledge	NetAdvance	http://www.japanknowledge.com/top/freedisplay
辞書・百科事典等	Web版日本近代文学館	八木書店	http://yaci.jkn21.com/
辞書・百科事典等	NICHIGAI/WEB Service for Academic Library	日外アソシエーツ	http://www.nichigai.co.jp/database/topics/eng/shu.html
雑誌記事索引等	CNI	国立情報学研究所	http://ci.nii.ac.jp/info/ja/cinii_outline.html
雑誌記事索引等	MagazinePlus		http://www.nichigai.co.jp/database/mag-plus.html
雑誌記事索引等	Web OYA-bunko教育機関版	大空社一文庫	http://www.oya-bunko.com/helptop/index.html
雑誌記事索引等	雑誌記事索引集成データベース	皓星社	http://www.annex-net.jp/ks1/
日本企業情報	ecl	プロネクサス	http://www.ecl.co.jp/
日本企業情報	Nikkei Telecom 21	Nikkei America, Inc.	http://www.nikkeiamerica.com/telecom21/index_en.aspx

(Marra, ibid.)

図 1：北米図書館の GIF プロジェクト統計



* 2010 年度統計は前半期データをもとに倍数にしたもの。

(Marra, 175)

- 2 - 3 [Marra, 185-186] の提言
 - i 「学術資料の制作者、提供者、および利用者とのコミュニケーションを促進し、それぞれの立場での必要を理解した上で、電子的学術資料の最良の提供方法を共同で模索しながら実践に移す」
 - ii 「機関リポジトリの整備とオープンアクセスをさらに推進する」
 - iii 「一次資料へのアクセスをさらに促進する：とりわけ、特殊資料やアーカイブ資料の整理が各所蔵機関でさらに進み、利用が多い有益な資料については電子化してネット上で公開する可能性も考慮しながら、アクセスが容易になるよう整備を進める必要がある」
 - iv 「電子資料と紙媒体その他の物理的資料を駆使し、統合的な日本研究資料の利用を促進する」

3 AAS(アジア学会) 年次大会 (1995-2011) 日本セッションの傾向から

Discipline	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
Art History	1	3	2	2	1	3		2	4	2	1	1	2	2	3	1	5
Literature	6	7	5	4	7	1	10	6	8	5	6	4	4	4	5	5	9
Performing Arts				1	1	2	3	1	1	1	1		2	1		1	1
Religion-Philosophy	1	3	1	5	1	1	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	8
Anthropology	2	1			1		1										
Polit. Economics	4	5	3	2	2	4	3	2	5	5	4	5	5	3	4	2	8
History	10	20	17	14	16	16	13	20	10	15	12	22	13	20	11	10	31
Sociology																	
Business																	1
Culture-Civilization	2	6	4	4	3	8	5	3	7	9	5	8	6	6	14	9	33
Linguistics	2	2	1		2	1		2		1	1	1	2		1	2	
Film Studies					1		1		1				1	1		2	1
Women's Studies	1	4	7	6	4	8	2	4	3	2	3	1	7	2	5	6	5
Education	1	4	1	2	1	1	2	2		4	2	1	1	1	1	2	4
other							1		1		1				1	3	5
[total]	30	55	41	40	40	45	43	43	41	46	38	45	45	42	47	45	111
(Informatics)		1					1		1						1		5
(science&technology)				3							1						

<http://www.aasianst.org/Conference/Past-AAS-Conferences.htm>より作成

なおこの統計はあくまで各セッションのタイトルにもとづく。特にsocial scienceのセッション数が少ないが、それぞれのセッションにsocial scienceの分野からの報告が含まれている場合もあり、この統計はそうした実態を反映するものではない。

● 3 - 1 特徴

- 社会科学系に対する人文科学系の偏り
- 人文科学系（文学、歴史、文化・社会論）は領域横断的・時代横断的にセッションを組む
 - ☞カルチュラル・スタディーズの浸透
- 一次資料へのアクセスと分析を重視する分野に対して、既刊資料を用いた研究の比重が高い
 - （前述、「2-1 米国の日本研究における人文科学系 humanities と社会科学系 social science のインセンティブの差」との関連）
- 数年ごとに情報学、調査方法論などにかかわるセッションが開設される

3 - 2 論点

- 資料のアクセス環境に規定された制約を前提にした海外の日本研究は閉鎖的なジャンルに固執することになる。その場合、領域横断性が地域横断性に結びつかないのではないか。

(カルチュラル・スタディーズの方法論の制約か?)

- また、既刊資料への依存によって研究がルーティン化することで、海外の日本研究の従事者がデータベース構築や資料のアクセス環境の改善に責任を持たなくなる。それはアーカイブ構築・統合を前進させない。

4 今後に向けて

- 現在すでに電子化が進んでいるアーカイブを、海外の研究者を巻き込んだ領域横断的・地域横断的な利用へ転化する方法を考える必要がある
-
- i 「信頼性の高いテキスト・アーカイブ構築のための、ディシプリン横断的なプラットフォームをつくる必要がある」
 - 「将来にわたる品質の維持が課題。そのためには標準の共有とピア・レビューのしくみをつくらねばならない」
 - 情報の共有
 - テキストの内容についての定量分析、テキストの進化過程の分析
 - テキストの参照関係の分析
 - （宮本隆史「南アジア地域研究におけるデジタル・アーカイブ構築の可能性と課題」）
-
- ii e-Japanologyによるデジタル・アクセス・サービスと、質の高いテキスト・アーカイブを結びつけるレイヤーを形成する
-
- カルチュラル・スタディーズとデジタル・アーカイブ構築事業とが共存する学術知の方向性を提起する

ご清聴ありがとうございました。

ttomotsune@tufs.ac.jp